

違うって面白い！もっと知りたいな！

所属	名古屋市立南陵小学校	実践者	木下 恵
対象	小学5年生	時間数	7時間
場所	教室	実践教科	総合
ねらい	・違いを認め合う大切さに気づき、他者、世界と積極的に関わろうとする姿勢を育てる。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	○ エチオピアってどんな国？～エチオピアとの肯定的な出会い～ ① エチオピアに対するイメージを書き出す(ブレインストーミング) ② エチオピアの様子をクイズ形式のスライドで紹介 ③ 実際の様子を見て思った感想を発表	☆基本全てグループ パワーポイント
	2	○ エチオピアでこんなもの見つけたよ！ ～おもしろい物いっぱいエチオピア～ ① エチオピア体験の紹介 ② エチオピア BOX の紹介(実物)	パワーポイント エチオピア BOX
	3	○ エチオピアと日本の違いを見つけよう！～違うって面白い！～ ① エチオピアの写真から日本との違いを見つける(対比表) ② 違いを見つけた感想を発表	エチオピアの写真 ・スーパー ・学校 ・道路 ・街の様子
	4	○ エチオピアと日本の似ているところを見つけよう！ ～人として大切なもの～ ① 第3回で使った写真や資料から共通点を見つける ② 共通点に共通していることは何か話し合う	前回の写真 エチオピアの子どものインタビューをまとめた資料
	5	○ もしもみんなが同じなら？～違うからこそおもしろい～ ① もしもみんなが同じ考え、同じ暮らしをしていたら？(派生図) ② 違いがあるおもしろさ、大切さに気付く	 【派生図を書く児童】
	6	○ 違いを認め合うってどういうこと？ ～認め合わないとうなるだろう？～ ① 世界が互いの違いを認め合わなかったら？(派生図) ② クラスのみんなが互いの違いを認め合わなかったら？(派生図) ③ 違いを認め合う大切さに気付く	 【児童が書いた派生図】
	7	○ 認め合うにはどうすればいいのか？～行動しよう！まず私から～ ① なぜ認め合えないのか？(力の分析) ② 認め合うにはどうすればいいのか？(二次元軸表)	
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童がエチオピアに興味をもつようになり、他の国のことも知りたいと思う児童も多く見られた。 ・ 互いの違いを認める活動の視点を世界→自分たちに移すことで、理解しやすくなった。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 互いに興味をもって積極的に関わろうとすることができない児童もまだいる。総合の時間ののみならず、他教科でも関わり合いながら学びを深められるような形式の授業を作り上げていきたい。 		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回授業の始めにその日のテーマにつながる ice break を取り入れて行った。 ・ 3 学期には、現地の協力隊の方へ行ったインタビュー映像を使って、世界の課題に取り組む日本人について授業を進めていく。 		

[授業実践の詳細]

1 時限目「エチオピアってどんな国？～エチオピアとの肯定的な出会い～」

この時限のねらい

- ・ 実際に行った経験をもとに作ったエチオピアクイズを答えながら、エチオピアに対するイメージを肯定的に変え、改めて出合わせる。

1 子どもの活動の流れ

- ① エチオピアに対するイメージを書き出す
 - ・ 4人グループで一枚の紙にエチオピアのイメージをブレインストーミング形式で書き出す。
- ② エチオピアの様子をクイズ形式のスライドで知る
 - ・ エチオピアの様子を紹介するパワーポイントを見ながら、グループ対抗クイズを行う。
- ③ 実際の様子を見て思ったことを発表する
 - ・ 最初のイメージからどう変わったのか、互いの意見を発表し合い、感想カードにまとめる。



<ブレインストーミングする児童>

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ エチオピアに対するイメージについては、アフリカにある国ということで、「暑そう」、「動物がたくさんいそう」、「食べ物がなさそう」といったものが多かったが、クイズを通して、都市があることや独特の食文化があることなどを、興味をもって学ぶことができた。

3 使用した教材

<教材1> エチオピアクイズ(パワーポイント)



<エチオピアクイズの一部>

2 時限目「エチオピアで見つけたよ！～おもしろい物いっぱいエチオピア～」

この時限のねらい

- ・スライドを見せながら教師が実際に体験したことを話し、エチオピアにより興味をもたせる。
- ・エチオピアで手に入れた現物に触れ、五感で異文化を体験する。

1 子どもの活動の流れ

- ① エチオピア体験の紹介
 - ・研修日程を紹介したパワーポイントを見ながら、教師がエチオピアで体験してきたことを聞く。
- ② エチオピア BOX (実物) の紹介
 - ・教室に並べられたエチオピア BOX の中身(楽器、衣装、食器、書物、貨幣、日用雑貨など)に触れ、異文化を五感で感じる。
 - ・最後に今日の授業で思ったことや考えたことを感想カードに書く。



<民族衣装を持った児童>

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 実物に触れることにより、「これは何に使うんだろう。」「文字の形がおもしろいね。」など、エチオピアの文化に対して、より興味をもつことができた。
- ◇ 現地の子どもが書いたノートに英語が書かれているのを見付け、エチオピアでも英語が使われていることに気付く児童もいた。
- ◇ 現地の言葉(アムハラ語)に興味をもち、あいさつを覚えようとする児童もいた。



<実物に触れる児童>

3 使用した教材

- <教材1> エチオピアクイズ(パワーポイント)
- <教材2> エチオピア BOX (JICA より借用)

3-4 時限目「エチオピアと日本の違いを見つけよう！～違うっておもしろい！～」

「エチオピアと日本の似ているところを見つけよう！～人として大切なもの～」

この時限のねらい

- ・エチオピアと日本の相違点を見つける活動を通して、文化の違いのおもしろさや、人として大切なものは共通していることに気付く。

1 子どもの活動の流れ

- ① エチオピアの写真から日本との違いを見つける
 - ・エチオピアの小学校、スーパーマーケット、食事、町の様子の写真をもとに、日本との違いを見つけ、グループで対比表にまとめてみる。
- ② 違いを見つけた感想を発表する
 - ・見つけた違いをグループごとに発表し、意見を共有する。
 - ・最後に今日の授業で思ったことや考えたことを感想カードに書く。
- ③ 写真や資料から共通点を見つける
 - ・違いを見つけるときに使用した写真と、現地の子どもに聞いたアンケートをもとに、日本との共通点を見つけ、グループで対比表にまとめてみる。
- ④ 共通点に共通していることは何か話し合う
 - ・家族を大切に思っていることや、夢をもっていることなど、国や文化が違っていても人として大切なことが共通していることに気付く。
 - ・最後に今日の授業で思ったことや考えたことを感想カードに書く。



<写真から相違点を見つける児童>

★ 日本	エチオピア
1人が4	7人 4~5人が4
生	冷たい
米パン、めん	黒板
うめこまねい	うめこまねい
手で食べる	手で食べる
すべいのめる	何時間もがかる
色とビリの食べ物が多い	赤と黄色の食べ物が多い

<違いをまとめた対比表>

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 違いを見つける活動では、写真からだけではなく、今まで話してきた教師からの体験から違いを見つける児童もおり、児童の中に確実にエチオピアが残っていることを感じた。
- ◇ 日本との相違点を見つける活動を通して、「エチオピアについてもっと知りたい」という児童や、「他の国のことについても知りたい」という児童の声が聞かれ、世界に興味をもって関わろうとする姿勢が感じられた。

3 使用した教材

<教材3> 教師海外研修で撮ったエチオピアの写真(小学校、スーパーマーケット、食事、町の様子)

5 時限目「もしもみんなが同じなら? ~違うからこそおもしろい~」

この時限のねらい

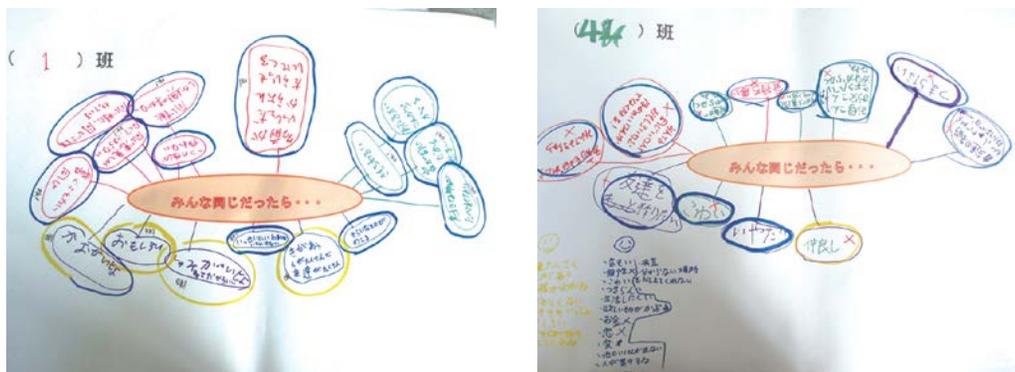
- ・ 共通点を見つけることで相手に親近感をもちながらも、まったく同じではないからこそ世界がおもしろく、また互いに進歩し合えることに気付く。

1 子どもの活動の流れ

- ① もしもみんなが同じ考え、同じ暮らしをしていたら?
 - ・もしもみんなが自分だったらと想像し、どんな世界になるのかを考え、グループで派生図に書き出す。
 - ・書き出した意見を改めて見直し、世界にとってプラスになることを黄色で、マイナスになることを青色で囲む。
- ② 違いがあるおもしろさ、大切さに気付く
 - ・黄色と青色の比率を考え、違うからこそのおもしろさや良さが多いことに気付く。
 - ・最後に今日の授業で思ったことや考えたことを感想カードに書く。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 同じであることで「仲良くなれる」、「意見が合う」などの良い点を見つけた一方で、「同じ意見しか出ない」、「好きな物、必要な物が偏る」など、困る点を多く上げるグループが多かった。
- ◇ 違いがあることがマイナスだと思っていた児童も、グループで意見を書き出す中で、同じだけだと世界が発展していかないことに気付くことができた。



<児童が書いた派生図>

6 時限目「違いを認め合うってどういうこと? ~認め合わないとどうなるだろう? ~」

この時限のねらい

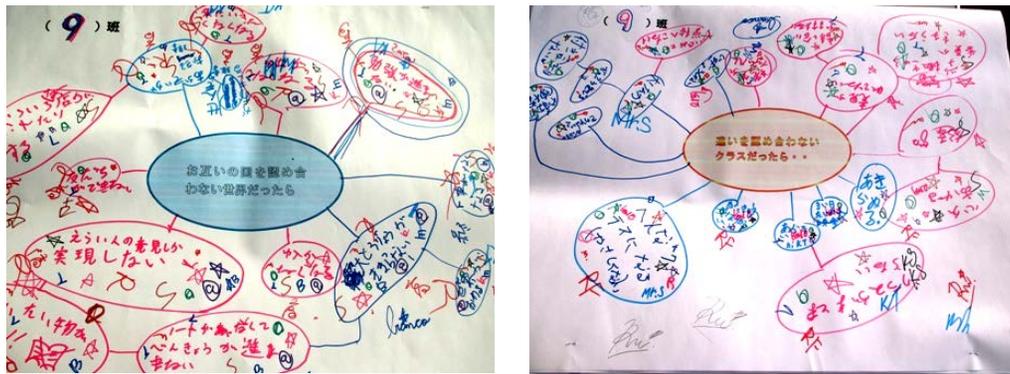
- ・違いがあることが世界をより発展させていることに気付いた前回の授業を受け、違いを互いに認め合うとはどういうことなのかを、認め合わない世界を考えることで考えさせる。

1 子どもの活動の流れ

- ① 世界が互いの違いを認め合わなかったら?
 - ・互いの違いを認め合うとはどういうことか考えるために、逆に、違いを認め合わない世界は、どんな世界になるのかを想像し、グループで派生図に書き出す。
 - ・それぞれのグループの派生図をギャラリー方式で見て回り、共有しながら、良いと思った意見に☆を付ける。
 - ・付けられた☆を見て、改めて認められることのうれしさを感じると共に、認め合うことの大切さに気付く。
- ② クラスのみんなが互いの違いを認め合わなかったら?
 - ・世界規模で考えたことを自分たちに落とし、クラスみんなが互いの違いを認め合わないと、どんなクラスになるのかを想像し、グループで派生図に書き出す。
 - ・①と同様に見て回り、☆を付ける。
- ③ 違いを認め合う大切さに気付く
 - ・今までの活動を通して、認め合う大切さについて話し合い、自分たちの行動をふり返る。
 - ・最後に今日の授業で思ったことや考えたことを感想カードに書く。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 互いに認め合うことの大切さについては、日頃から折を見て指導されてきているので、頭では分かっている児童が多い。しかし、実生活では自分のことしか考えておらず、周りのことを考えたり、他の意見を認めたりすることができる児童は少ない。そこで、改めて自分たちについてふり返るため、認め合わない世界で起こる問題について考え、さらに自分たちに身近なクラスに置き換えることで、認め合うことの大切さについて具体的に考えることができた。



<グループで書いた派生図>

7 時限目 「認め合うにはどうすればいいの? ~行動しよう! まず私から~

この時限のねらい

- ・認め合う大切さを知った上で、実現するために必要になる具体的な行動は何か、また、何が実現をじやましているのかを考えることで今までの自分の行動と向き合い、よりよい世界をつくらうとする姿勢を育てる。

1 子どもの活動の流れ

- ① なぜ認め合えないのか?
 - ・普段クラスで起こるトラブルは、互いの思いを認め合っていないために起きていることに気付く。
 - ・目指すべき姿を支える力とそれを阻む力について考え、グループで力の分析図を書く。
- ② 認め合うにはどうすればいいの?
 - ・お互いの思いを認め合うためには具体的にどんな行動をとればいいのかを考え、付箋に書き、グループで二次元軸表に貼り分けていく。
 - ・できた表を見直し、自分たちにできることを考え、クラスの行動宣言文を作る。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 力の分析図を書くに当たって、「認め合うクラスにするための力になること」ではわかりにくかったので、自分がしてもらってうれしいと感じることという表現で説明した。すると、子どもたちからたくさんの意見を引き出すことができ、話し合いも活発に行われていた。
- ◇ 自分の行動をふり返ってみると、頭では分かっているけど行動できていないことに気付くことができた。授業のふり返りカードには、問題を知り、気付いてから、行動に移すことの大切さを感じている子どもが多かった。

■ 全体を通して

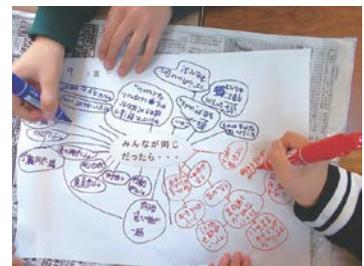
1 授業の様子



<エチオピアBOXの中を見る児童>



<エチオピアクイズに取り組む児童の様子>



<派生図を書く児童>